

地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会

初等・中等教育検討小委員会（第25期・第1回） 議事要旨

日時：令和3年6月14日（月） 17：00～18：30

会場：遠隔会議

出席者：西、阿部、井田、大路、沖野、小口、木村、久保、佐藤、中村尚、氷見山、市川、北里、小林、久田、宮嶋

欠席者：春山、中村正人、川辺

オブザーバ：阿部

議題等

（1） 第25期役員の決定について

暫定的に西（世話人）が議長を務めた。今後、委員長は阿部なつ江特任連携会員，副委員長は久保純子連携会員，幹事に沖野郷子連携会員，川辺文久委員が選出された。尚，阿部委員長は幹事会認定後に就任する予定である。

（2） 議事要旨の提出に関する委員長一任について

承認された。但し，議事録回覧による各委員の承認を必ず得ることの必要性が確認された。

（3） 小委員会委員間のメールアドレス共有について

承認された

（4） 小委員会委員の追加

阿部なつ江特任連携会員を小委員会に追加することが承認された。

（5） 小委員会委員の変更

大谷栄治連携会員は手続きミスのため名簿から削除することが承認された。

（6） 第25期における活動方針 および（7） JpGU2021における活動に関して

最初に第24期提言のフォローアップの活動としてどのようなものがあるか，各委員の情報を交換した。JpGU2021の教育委員会における活動に関しては，以下のものがあることが報告された。

- 2021年大会でのセッション O-04「GIGA スクールと地球惑星科学教育：オンライン授業からの示唆」および U-14「変動する地球に生きるための素養を育む地球教育の現状と課題」
- 全国地学教育関係者オンライン情報交換会の実施
- 国際科学（地学・地理）オリンピック
- AGI と連携したアース・サイエンス・ウィーク・ジャパン 2021 年
- 教員免許状更新講習事業
- 理数系学会教育問題連絡会の活動

これ以外にも以下の北里委員から以下の4つの活動報告があった

- JSTサイエンスポータルサイエンスオピニオンに「大震災後の復興には「地球に生きるための素養」が必要」（北里 洋）というタイトルの論説を投稿し、2020年10月に掲載された。本文中に学術会議提言を紹介した。
- JST主催、東京海洋大学(TEAMS)連携、サイエンス・アゴラ「海に生きる：3.11からの10年とこれから」（2021年度も行う）
- 日本科学未来館主催、東京海洋大学（TEAMS）・ユネスコ（U-Inspire）協力「高校生ちきゅうワークショップ2021：恵みと災いをもたらす自然の中で、どう生きるのか？」（今後、毎年行う方向で準備中）
- IGE0, Geo. Sci. Ed の第9回大会（4年に1度の総会）を日本地学教育学会が招致し、2022年8月24～26日に島根県松江市で開催すべく準備中である。日本地学オリンピックと共催した形での国際会議を行う予定。

また、他分野との連携が重要であり、地理教育分科会・日本地理学会の地理教育専門委員会（井田委員）、天文学会物理学委員会（佐藤委員）などの連携すべき組織が挙げられた。さらに、SDGs, Future Earth, WCRPなどの国際的な事業との連携も視野にいて活動する重要性も指摘された。特に、SDGsは重要で気候変動や海洋の問題を解決することは重要な視点となる。

これ以外にも、今後の活動計画として重要な視点として以下のものが挙げられた。

- International Outreach & Educationにどう取り組んでいくかの戦略を立てる必要がある。その出口が提言となる。
- 学術会議—JpGU—学協会の三者連携強化が重要である。どういうところを強化するか、どのようなしくみをつくれるかが鍵になる。
- ESD（持続可能な発展のための教育）の視点
- 地球教育を行うためには副読本をつくる必要がある。

また、地理の現場からの報告として「必修化」を行うと1番の活性化につながることも指摘され、地学の諸問題も解決の糸口は同じかもしれない。一方で、地学のことだけを考えずに物理、化学、生物、地学の四科目のバランス、理科の全体のバランスとして教科を見直すことこそ必要があるという意見もあった。

以上の議論を踏まえて、最終的に今期の活動方針として、1) 初等・中等教育に関する活動にどんなものがあるか情報収集を行う、2) 提言に関するフォローアップを行う、3) 最終的には提言を行える可能性があるか吟味する、の3点を承認した。